

科目名	障害児保育		
担当教員名	渡辺 和弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育所・幼稚園では、障害をはじめ、特別な配慮や支援を必要とする気になる子どもが増えている。ノーマライゼーション理念、インクルージョン等の国際的動向により、その傾向が加速されるであろう。このため、保育者には障害についての理解とその保育観の形成が不可欠といえる。

本講義では、障害児保育の現状と課題、障害特性の理解と支援、気になる子どもへの対応、保護者・関係機関との連携について学ぶ。

学修目標は、 障害児保育の実態と課題を理解すること、 障害の特性と支援について理解すること、 個別の支援計画の作成・活用による保護者・関係機関と連携した支援について理解すること、である。

内容

1	障害児保育(関連する用語の整理)の考え方と障害児保育の場の特徴
2	障害児保育の現状と今後の方向
3	乳幼児期の発達(感覚・運動の発達)について
4	感覚統合の指導とは
5	「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成・活用
6	障害幼児の保育・教育のカリキュラム
7	障害特性の理解と支援(1)知的障害、肢体不自由
8	障害特性の理解と支援(2)視覚障害、聴覚障害、病虚弱
9	障害特性の理解と支援(3)広汎性発達障害(自閉症スペクトラム)
10	障害特性の理解と支援(4)注意欠陥多動性障害、学習障害、気になる子
11	ことばの発達とその指導
12	日常生活の指導(基本的生活習慣の確立)
13	関係機関との連携による障害児保育
14	インクルーシブ保育をめざした障害児保育の今後の課題
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート(40点)と最終週の試験(50点)に、通常の授業態度(10点)を加味して評価を行います。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】渡邊健治他編「幼稚園・保育園等における「個別の(教育)支援計画」の作成・活用」
ジアース教育新社。

【参考図書】田中康雄監修「わかってほしい気になる子」学研、高松鶴吉「障害児保育の原理」学研

【その他】必要に応じて随時授業で紹介します。毎回授業時に資料を配布します。

科目名	多文化教育		
担当教員名	大和 洋子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、保育士・幼稚園教諭として現場に勤める予定の学生を想定した授業です。ディスカッションやミニ発表を含みますので、積極的な姿勢を期待しています。

- 1、日本における多文化の歴史とその変遷を理解します。
- 2、日本の多文化地域の教育実践例を取り上げながら、現状を把握することに努めます。特にアジア諸地域の保育・幼児教育を理解し、その地域から日本に移住した家族が体験するであろう問題点、及びそのような子どもを受け入れた施設側が直面するであろう困難点を予測し、解決策を探ります。
- 3、世界の多文化共生社会の教育現場での取り組みを学習します。

保育者として現場で多文化からくる困難に直面した際に、自分の文化的背景を当然の前提として解決策を探らず、適切な対処を考えられるようにします。

内容

本講座は聴講だけでなく、学生の積極的な発言や発表を期待しています。様々なビデオを鑑賞しますが、そのあとにディスカッションやグループワークも取り入れます。聴講生の人数により、単独ないしグループで教科書 (或いは教科書にない) 国・地域の調べ学習分担地域を決め、ミニ発表の時間を設けます。

まず、文化とは何か、差別とは何か、なぜ差別がなぜ起こるのか、なぜ多文化教育が必要なのか、という基本的なところから学習します。

前半では日本の多文化教育の歴史を追いながら、社会の変遷を学習し、後半では世界諸地域の多文化共生の取り組みを学習していきます。

指定教科書以外に、文献や資料を適宜配布し、それに基づいて授業を進めます。

評価

ほぼ毎回ミニレポートを提出してもらいます。その積み重ねを評価に加算します。試験は学期末レポートです。ミニレポート + 学期末レポート + クラスでの貢献度で総合的に評価します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書：泉千勢・一見真理子・汐見稔幸編著 (2006) 『世界の幼児教育・保育改革と学力』明石書店 ￥2600

参考図書：山田千明編著 (2006) 『多文化に生きる子供たち 乳幼児期からの異文化間教育』明石書店 ￥2600

OECD編著 星三和子・首藤美香子・大和洋子・一見真理子訳 『OECD保育白書 人生の始まりこそ力強く：乳幼児期の教育とケア (ECEC) の国際比較』明石書店 ￥7600

科目名	保育内容総論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科児童教育専攻の学科専門科目であり、保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、3・4年次の実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計（安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮）
5	保育内容の吟味（子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える）
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程 / 指導計画（週案・日案） / 行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目
13	グループごとの発表1回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度（20%）、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼンテーションの内容（20%）、グループ活動による作成資料の提出（30%）、学期末のレポート（30%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	保育内容総論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科児童教育専攻の学科専門科目であり、保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、3・4年次の実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計(安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮)
5	保育内容の吟味(子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える)
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程/指導計画(週案・日案)/行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目
13	グループごとの発表1回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度(20%)、グループ活動への取組みの姿勢とプレゼンテーションの内容(20%)、グループ活動による作成資料の提出(30%)、学期末のレポート(30%)により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	保育内容総論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科児童教育専攻の学科専門科目であり、保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、3・4年次の実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計(安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮)
5	保育内容の吟味(子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える)
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程/指導計画(週案・日案)/行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目
13	グループごとの発表1回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度(20%)、グループ活動への取組みの姿勢とプレゼンテーションの内容(20%)、グループ活動による作成資料の提出(30%)、学期末のレポート(30%)により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	保育内容総論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科児童教育専攻の学科専門科目であり、保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、3・4年次の実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計(安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮)
5	保育内容の吟味(子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える)
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程/指導計画(週案・日案)/行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目
13	グループごとの発表1回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度(20%)、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼンテーションの内容(20%)、グループ活動による作成資料の提出(30%)、学期末のレポート(30%)により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	道徳の指導法		
担当教員名	綾井 桜子、高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は小学校教諭一種免許状の取得に必要な「教職に関する科目」であり、「教育課程及び指導法に関する科目」の一つです。

講義では、学校をとりまく現代社会の今日的位相を射程に入れながら、小学校における道徳教育の役割、意義、内容と指導の実際を学びます。加えて、道徳的な心情、道徳的な判断力、道徳的な行為について考え、自身の道徳教育観の構築に役立てます。

学修目標は、次の三つです。 小学校における道徳教育の役割を理解する。 「道徳の時間」について理解し、構想をたてる。 発表を通じて、相互に検討を行い、道徳教育の具体的な方法を身につける。

内容

1. 道徳、道徳教育について
2. 学習指導要領について 道徳教育の位置づけ、役割
3. 学習指導要領について 道徳教育の充実、配慮事項
4. 道徳性の発達と児童理解
5. 道徳授業の実際
6. 道徳授業の実際
7. 「道徳の時間」の指導過程、指導の工夫
8. 資料の検討と分析、選択
9. 資料の検討と分析、選択
10. 指導案の作成手順、作成
11. 模擬授業
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. まとめ

評価

試験40点、課題提出40点、授業への参加度20点とし、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しません

【推薦書】徳永正直・宮島秀光・榊原志保・堤正史・林泰成『道徳教育論 - 対話による対話への教育』

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領』、文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」に対応するものである。

小学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

生徒指導は、学校における教科指導と並んで学校教育の中心となるものである。しかし、生徒指導の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。生徒指導の機能について正しく理解し指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生自らの小中学校における生徒指導の体験や課題意識を相互に意見交換し、児童生徒の生き方・在り方にかかわる指導ができるようにする。

学修目標

- ・生徒指導の意義や目的、内容、方法について理解を図りつつ、自らの児童観、教師観を構築していく。
- ・生徒指導上の諸問題について、グループごとに課題を設定し、その対応の仕方を具体的に考察する。
- ・小学校における進路指導の在り方について考察する。

内容

授業は教科書を使って行うが、講義形式だけでなく、自ら課題を見つけ、調査・検討し、発表するグループワークを行う。小学校における指導を意識した具体的な指導力について、体験的に学び合い、互いに高め合える授業をめざす。

1	1. 生徒指導の意義と目的
2	2. 生徒指導の領域・内容と課題
3	3. 生徒指導と教育課程との関連
4	4. 各教科・道徳・特別活動等の生徒指導に果たす役割
5	5. 生徒指導の組織と計画
6	6. 児童・生徒理解の意義と重要性
7	7. 児童・生徒理解の内容と方法
8	8. 児童・生徒理解の具体的な手だての有効性と問題点・留意点
9	9. 生徒指導における集団指導の意義と方法
10	10. 生徒指導における集団指導の実際(1) 子どもの気持ちをつかむ指導法
11	11. 生徒指導における集団指導の実際(2) 思いを伝えづらい雰囲気改善する指導法
12	12. 進路指導の目的と内容
13	13. 小学校における進路指導
14	14. 進路指導の方法と指導計画
15	15. 学習のまとめ

評価

試験60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】江川？成編著 『生徒指導の理論と方法』 学芸図書

【参考図書】学校教育研究所編 『生徒指導の今日的課題』 学校教育研究所

新井邦男、住田正樹、岡崎友典編著 『改訂 生徒指導』 放送大学教育振興会

仙崎 武、野々村新、渡辺三枝子、菊池武剋編 『入門 生徒指導・相談』 福村出版

科目名	児童文化		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

人間は自然環境に適応すると共に、自然環境に働きかけて新たな環境を創り出す。この人間の営みを、自然との対比で「文化」と呼ぶ。さて人間は、子どもと共に生きることに深い喜びを感じ、長い歴史の中で「子どもの文化」を築き上げてきた。子どもは、文化という土壌の上に生み落とされ、成長を遂げてゆく。とはいえ、子どもも文化の作り手、伝え手ともなりうる。「児童文化」においては、子どもと大人が共に織りなす政の営みという視点から、生を共有する仲間が共に創造した文化について探求することを目指す。

内容

- 第1回 児童文化とは何か
- 第2回 子どもの成育儀礼にみる子育ての文化
- 第3回 年中行事と子どもの生活
- 第4回 子どもの伝承遊び
- 第5回 子どもの衣服・食事・部屋
- 第6回 情報化社会と子ども
- 第7回 伝統玩具（人形も含める）と子ども
- 第8回 教育玩具、キャラクター玩具
- 第9回 遊具、公園、遊園地
- 第10回 わらべ唄、唱歌、童謡
- 第11回 おはなしの歴史的変遷（昔話、口演童話、ストーリー・テリングなど）
- 第12回 紙芝居の世界
- 第13回 人形劇、ペープサート、パネルシアターなど
- 第14回 絵本の世界
- 第15回 幼年文学の世界

評価

授業への取り組み方20%、試験80%によって評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『児童文化 子どものおあわせを考える学びの森』 皆川美恵子他著 ななみ書房

科目名	児童文学特論		
担当教員名	皆川 美恵子、松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「児童文学特論」として、子どもたちを取り巻く物語世界が、どのようなものを具体的に考察していく。二人の担当者による二部構成で特別講義を進めていくが、前半は、小学校の国語の教科書も編纂している松木により、国語科教材としての児童文学を取り上げる。後半は、皆川により、学校教育場面では取り上げることの少ないと思われる作品を題材にして、子どもの文学の広さと深さについて考察を試みて行く。

内容

前半を松木、後半を皆川と分けて担当する。

- 1回 オリエンテーション 子どもたちを取り巻く児童文学の諸相
- 2回 小学校1年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 3回 小学校2年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 4回 小学校3年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 5回 小学校4年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 6回 小学校5年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 7回 小学校6年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 8回 エリノア・ファージョンの児童文学
- 9回 アリソン・アトリーの児童文学
- 10回 フィリッパ・ピアスの児童文学
- 11回 ルーマ・ゴッデンの児童文学
- 12回 石井桃子の児童文学
- 13回 松谷みよ子の児童文学
- 14回 安房直子の児童文学
- 15回 まとめ 物語を享受する子どもたち

評価

意見発表、討議など授業への積極的取り組み方40%、レポート成績60%によって評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

『教科書掲載作品（小・中学校編）』 日外アソシエーツ

科目名	乳児保育		
担当教員名	川喜田 昌代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳児保育 を基礎とする。乳児保育を深めるための科目である

科目の概要

乳児の保育に必要な「理論や知識をもとに、乳児保育の意義や重要性について理解を深め乳児保育を担当する保育士としての役割や望ましい援助の在り方、保護者への育児支援等について考察を深める。

学修目標

子ども一人一人を大切にする保育の在り方を模索する過程で、学生自身の乳児保育観を構築していくことを目的とする。また、乳児及び3歳未満児保育の中で学生自らがテ - マを選択し、学生自身の意欲に基づいて、自ら具体的に学ぶ - すなわち、保育課題に対する追求方法についても学ぶことを目標とする。

内容

1	乳児保育 オリエンテーション
2	乳児保育とは
3	赤ちゃんの能力と発達と関係
4	乳児期の母子関係（3歳児神話との関係）
5	0歳児の生活と母子関係
6	0歳児の生活の様子（特徴と留意点）
7	1歳児の生活の様子（特徴と留意点）
8	2歳児の生活の様子（特徴と留意点）
9	乳児期の言葉の発達（遊び・絵本）
10	乳児期の病気と事故
11	保育者の役割「先生ママみたい」（テーマ選択しグループ討議）
12	連絡帳の書き方・保護者への返事の検討（グループ・個人）
13	乳児保育の指導計画（指導案作成）
14	保護者に対する支援
15	総合学習

評価

選択科目である以上、積極的な参加を期待する。

評価は、学生自身の積極性及び、研究発表や討論の内容による。

出欠席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

毎回のコメント及びレポートを各々50%により評価を行い、総合点60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて適宜紹介する。

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 乳児保育 を基礎とする。乳児保育を深めるための科目である。

科目の概要 現在、乳児保育を行う保育現場では、さまざまな問題を抱えている。発達障害の可能性が見られるような「抱っこを嫌がる乳児」「睡眠が安定しない乳児」「排泄への拘りが強い乳幼児」「不安定な乳児」「言葉の発達の遅れ」、また「虐待の可能性のある乳児」「病児への対応」「保護者対応」等である。これらの現状を学び、その保育について研鑽する。

学修目標 子どもひとり一人を大切にす保育の在り方を模索する過程で、学生自身の乳児保育観を構築していくことを目的とする。また、乳児及び3歳未満児保育の中で学生自らがテ - マを選択し、学生自身の意欲に基づいて、自ら具体的に学ぶ - すなわち、保育課題に対する追求方法についても学ぶことを目標とする。

内容

保育現場の実践例からの「事例研究」及び、個人・グループにおける「テ - マ研究」の選択から分析まで、学生の主体性を尊重する。可能な限り、授業で提供される事例のみではなく、学生自身の乳児との体験や自分の乳児期の成育歴等、各自の体験の中から研究をすすめたい。この授業では、乳児の捉え方、課題の設定、研究の進め方、分析方法、研究結果の整理方法等を具体的に学習する。

また、乳児の映像等を活用して、乳児の心理や発達状況を捉える演習も行う。

1	乳児保育 オリエンテーション
2	愛着の意義・愛着の関係性障害
3	乳児院事例から子どもにとっての愛着と保育者にとっての愛着についての考察
4	乳児保育担当者である新卒保育者の保育日誌検討
5	保育実践事例討議 (グループ)
6	討議発表 (グループ)
7	発達障害・気になる子どもの乳児の特徴と対応
8	子ども虐待の特徴と対応
9	保護者支援
10	子どもの気質・新生児の行動変容と保育
11	連絡帳の意義と書き方の留意点
12	乳児クラスのけんか場面の保育分析
13	乳児院の現状と課題
14	医療保育の現状と課題
15	乳児保育 総括

評価

選択科目である以上、積極的な参加を期待する。

評価は、学生自身の積極性及び、研究発表や討論の内容による。

出欠席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

毎日のコメント及びレポートを各々50%により評価を行い、総合点60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて適宜紹介する。

科目名	保育実習総論		
担当教員名	野口 隆子、上垣内 伸子、向井 美穂、横井 紘子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「保育実習」「保育実習」、「保育特別実習」「保育特別実習」「保育・教育特別実習」、「幼稚園教育実習」履修者の実習事前事後指導を目的とする。保育士資格を取得する場合必修。幼稚園教員免許のみ取得希望者も、必要に応じて受講する必要がある。将来保育者を目指す学生が受講し、意欲的に参加することが望ましい。

科目の概要

各実習の目的や課題を明確にすると共に、実習前・中・後の具体的なプログラム、実習先に関するインフォメーション、実習の心構えと準備、実習日誌の書き方などを指導する。また、実習を終えた学生の報告会を随時おこない、話し合いを通して経験を共有する。

学修目標

実習は「事前指導-実習-事後指導」という一連の指導を経て実習と認められる。そのことを理解し、授業に積極的に参加する。また、授業の中で進める発展的学習・課題をおこなうことで、保育の場・保育実践をより多角的に理解し、実習生としての責任感、自己課題の探索、臨機応変な実践力などの育成を目指す。

内容

【前期の主な授業内容】

<「保育実習」「保育実習」の事前指導>

- ・授業概要とスケジュール/各実習の目的と方法
- ・実習内容、実習生としての心構え
- ・乳幼児への援助のあり方
- ・実習日誌/指導案/実践演習
- ・実習施設別のグループワーク
- ・個別指導

【後期の主な授業内容】

<「保育実習」「保育実習」の事後指導>

- ・実習後の振り返り(グループディスカッション、個別指導)
- ・実習課題(自己課題/保育課題)の確認

<「幼稚園教育実習」の事前指導>

- ・3年次「幼稚園教育実習」の目的と方法、心構え
- ・実習内容の確認
- ・幼児期の発達による教材選択や指導のねらい、留意点
- ・実習日誌の意義と書き方/指導案/模擬保育
- ・個別指導

<「保育特別実習」「保育特別実習」「保育・教育特別実習」の事前指導>

- ・各実習の目的と方法

・実習履修の手続き

保育実習と教育実習に内容がまたがるので、保育士資格か幼稚園教諭免許状の片方のみの取得を希望する者も、4年次の「幼稚園教育実習」とあわせて受講することが望ましい。

評価

授業への参加状況（50％）や課題提出（50％）などから総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

<教科書>

大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

<参考書>

最新保育資料集 子どもと保育総合研究所 ミネルヴァ書房

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育実習		
担当教員名	野口 隆子、山田 陽子、横井 紘子、権 明愛 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

保育士資格取得のための必修科目であり、「保育実習」とともに必ず履修しなければならない。（その他「保育実習総論」も資格取得上の必修履修である。さらに保育特別実習「 」もしくは「 」を選択履修すること。）

科目の概要

原則3年次に2週間、保育所で実習を行い、責任実習も先方の保育所との相談の上経験する。保育園における最初の実習となる場合が多いので、まずは全年齢のクラスに1～2日間ずつ入れていただくようにし、年齢ごとの発達とケアのあり方を学ぶ。生活の中の様々な養護を実践すると同時に、保育を支える周辺の仕事を体験する。実習中は毎日保育実習日誌を提出し、指導者の助言を受け、各自の実習課題を明らかにし、学びを深めていくことが必要となる。他の職員と連携・協働できるような基本的なコミュニケーション能力と技能を育むことも非常に大事である。また、子育て支援における役割、他のスタッフの業務分担や協力関係も学ぶ。さらに保育士の保護者とのかかわりを観察し、家庭や地域との連携の必要性を学び問題意識をもってほしい。

学修目標

実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を受けて実習として認められる。「保育実習総論」の指導をふまえ、実習先の状況の中で臨機応変に対応し、自己課題・保育課題を見つけていく。

内容

< 保育実習 の主な内容 >

- 実習施設の概要の理解、
- 保育所保育の実情の理解（保育の流れ等）
- 乳幼児の発達
- 保育課程・指導計画の理解
- 多職種職員の連携によるチームワークの実情
- 家庭・地域の連携
- 保育方法と保育技能の理解と習得
- 安全・危機管理
- 疾病予防や健康維持を図る配慮
- 保育士の倫理観などの視点をもち実習に取り組み、学びを深める

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

実習先の保育所は、基本的に、学生の居住する市区町村の担当部署に大学が依頼をして決める。公立が多いが、一部民間保育所もある。実習依頼にあたって相談がある場合は、指定の期日内に早めに相談をしておくこと。また、実習は原則3年次の夏季休暇中となる予定であるが、市区町村との調整で別の時期になる場合がある。各自が主体的な意識を持ち、実習プランニング（実習の準備も含めて）を立て、学生生活全体の調整をすること。

評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回「実習の手引」を持参すること

<教科書>

大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育実習		
担当教員名	潮谷 恵美、鈴木 晴子、向井 美穂、権 明愛 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育実習 は、保育士資格取得の必修の実習である。3年次に11日間(90時間)、保育所以外の児童福祉施設 乳児院 児童養護施設 肢体不自由児施設 知的障害児(者)施設等での実習を行う。宿泊実習が原則であるが、実習生の宿泊設備がない入所施設の場合は、通いの実習となる。

学生にとって宿泊実習は不安と緊張を感じるものであろう。不安を克服するために事前にボランティア活動をしたり、実践記録を読んだりして実習に焦点を合わせるようにする。実習に対して実践的なイメージをより具体的に持つことが重要である。配属先の施設について事前学習を自主的に行い、学生自身の実習における具体的目標を明確にした上で実習に望むことが求められる。

複雑多様化していく今日の子ども達のニーズに一貫して答えていくためには、子どもの発達や成長を理解し子ども達ひとり一人にきめ細かいアセスメント(事前評価)を行い、そのニーズに的確に把握し、個々の課題に向けて具体的プログラムを学ぶことは大切なことである。施設の職員・子ども達との共同生活を通して施設の実態に触れるという体験は、自己の抱いていた偏見や先入観を取り除くきっかけとなりうる。同時に施設の子ども達や職員についての理解を通して、新しい児童観・福祉観を身につけ、自分の保育に対する姿勢を見直す糸口とすることをねらいとしている。

内容

具体的な指導は実習総論 の年間30回の計画に従う。

「事前指導 配属先の発表 実習施設の事前報告書作成 初インターンシップ報告書の提出 実習開始 巡回指導を受ける 事後指導(学内反省会) 個別指導(評価表にそって)」の流れにのって進める。

実習先の施設は、大学の指定した施となる。4月末から翌年3月末までに1名もしくは複数で実習を行う。実習は、なるべく授業のない時期に行うので、夏休みや期間休み、学園祭の前後になる場合が多い。しかし、受け入れ施設の都合により授業と重なる場合もでてくる。実習先決定後は、実習先福祉施設の具体的理解を深めることが必要となる。過去のオリエンテーション報告書や福祉施設の機能について事前に調べておくことが求められる。その上で自身の施設実習の具体的目標を掲げ、目標達成に向けてどのような実習をするかをイメージできるよう学習する。

施設における保育士の役割を学びながら、実習を通じて幅広い年齢層、多様な背景をもつ子ども達の生活ニーズを把握し、個別的・集団的に対応していく力量を高めていくこととする。生活をともにしながら保育を実践している施設保育士に求められる幅の広い職務内容を理解しながら、実習生としてどのような学びを深めていきたいかという自覚を持つことが大切である。

また知的障害、身体障害で実習する場合は他の専門職と連携をとるために治療教育や看護・医学やOT作業療法PT理学療法ST言語療法のリハビリテーションの専門を事前に学び、チームワークがとれるようにしておく。職員とのかわりを通しての子どもの理解という視点を忘れないように心掛ける。

評価

実習先の施設による評価を基本としますが、施設によって基準が一律でないので、大学で総合的な評価への読み替えを行う。また実習にあたって必要な提出書類に不備がないことも評価の対象とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大場幸夫・大島恭二編 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育特別実習		
担当教員名	向井 美穂、野口 隆子、上垣内 伸子、権 明愛 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）- 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

保育士資格取得のためのの実習として、必修の「保育実習（「保」と略す）」「保育実習（「保」と略す）」のほか、この「保育特別実習（「特」と略す）」を履修する必要がある。「保」「保」「保育実習総論」を履修後に取り組む実習である。

科目の概要

「特」での実習では、今までの実習や主として「保」の中で探究した自己課題・保育課題と関連づけながら、学びを広げ深めていくことを主たる目的とする。そのため「保」の実習経験と「特」の実習をどうリンクさせるか、各自でよく考え、2週間の実習内容に関するプランを立てる。また、特定のクラス(原則3歳未満児クラス)に連続して入れていただき、責任実習をおこなう。

学修目標

各自の学びの課題を明らかにした上で実習プランを立て、受け入れ先の施設の実情に合わせ、大学の実習担当と相談して実習を進めていく。実習時期と内容により事前事後指導を3年次の「保育実習総論」、4年次の「幼稚園教育実習」でおこなう。そのため「幼稚園教育実習」の指定された授業に参加し、「特」で学ぶ内容、実習先の理解、実習後の振り返り等の指導を受ける必要が生じる。

内容

「保育実習」の経験をふまえ、主として以下の内容に取り組む。

- 保育全般に参加し保育技能を習得する
- 子どもの個人差に応じた援助を理解する
- 多様な保育ニーズに対応した保育の展開を学ぶ
- 指導計画の立案と実践（責任実習）
- 家族や地域社会との連携を学ぶ
- 保育者の倫理について理解する
- 保育への自己課題の明確化
- 保育実習の総括

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

実習中は実習日誌を毎日担当者に提出し、指導を受ける。責任実習（一日または半日の保育、または部分）の実施にあたっては、指導者の指導・助言のもと指導案を作成し、保育の実践、評価・反省という一連の保育の営みを体験する。「保育実習」で経験できなかったことにチャレンジする意欲をもって臨んでほしい。実習後は、保育日誌に必要な内容を補充して大学に提出し、一連の保育実習での学びを総括する。

尚、実習は原則2週間（土曜の半日を含む）とし、大学で指導する基準を満たす民間の認可保育所を自己開拓する場合と、大学がすすめる民間の認可保育所に配属される場合とがある。原則「保」とは違う保育所で体験すること。また、実習時期は原則4年生の夏季頃、もしくは大学の授業のない期間にておこなうこととする。

評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。また、事前指導及び事後指導への取り組み、必要提出書類の状況等も評価に反映させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回「実習の手引」を持参すること

【教科書】

授業内で紹介する。

科目名	保育特別実習		
担当教員名	鈴木 晴子、潮谷 恵美、向井 美穂、権 明愛 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

保育士資格を取得するための実習として、必修の「保育実習 」「保育実習 ｣のほかに、「保育特別実習（特）」、「この「保育特別実習（特）」のいずれかを履修する必要がある。原則として保育所における実習体験の拡充を図る場合は「特」、施設（保育所以外）における拡充を図る場合は「特」ということになる。

特 は、将来保育所以外の児童福祉施設における保育士を目指す学生が主に選択する実習として位置づけており、「保育実習」で行った保育所以外の児童福祉施設等における実習内容をより深めることを目標としている。また、児童福祉施設を持つ社会的役割や機能、子どもの家族や地域社会における援助など、子どもを取り巻く社会的環境についても視野を広げ、そうした視点を養うことも目標である。実習配属にあたっては、受け入れ先との交渉、その他の実習スケジュールとの関係も考慮する必要がある。

内容

実習先を自己開拓することが求められる。宿泊型および通所型の福祉施設が対象となる。実習先を自己開拓するにあたっては 施設の成り立ち、時代背景、社会的ニーズなど施設を取り巻く環境変化などを理解する 子どもの入所経路や入所理由など、社会的背景を十分に事前学習し施設の果たしている役割、機能を理解する 実習施設の生活環境などを理解する 子供たちや障害のある人々の家族はどのような思いや願いを持って施設を利用しているのかを理解する 施設で生活している人々の抱える問題、それが社会的にどのような状況から生じているのかを理解する、といったことを整理した上で検討することが必要である。

また、施設保育士に求められる要素の一つとしてソーシャルワーク的援助が挙げられる。施設における生活場面での直接援助および家族に対する援助といった視点についても学びを深めていくこと。さらには実習先によっては障壁に関する専門的知識を有していることが必要とされる。よって、実習先に応じた具体的実習計画を立てて実習に臨むことが求められる。

実習では、「保育実習」で経験できなかった生活援助計画、個別援助（ケースワーク）、集団援助（グループワーク）計画案を責任実習に取り入れる等積極的に実習に取り組むことが求められる。また生活を共にすることで自身の保育観を見つめなおし、さらには実践的な援助が出来るように取り組むことが臨まれる。

実習終了後の日誌においては自身の保育観や社会的養護、障壁に対する見方等についても振り返ることが求められる。

評価

大学指定の評価表に基づいて実習先からの評価を受け、日誌の提出具合やその内容などを総合的に判断し、評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子編 最新保育講座 13 『保育実習』 ミネルヴァ書房？

科目名	教育実習		
担当教員名	松木 正子、綾井 桜子、狩野 浩二、清水 玲子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【履修登録は、通常では3年次後期に行ってください。前期科目は再履修者用です】

この授業は教職員免許法で定める小学校の教育実習に係わる事前事後の指導を行うことをねらいとしている。

教育実習の目的、進め方、教育実習へ臨む心構えを初め、実際の授業の進め方、指導案の作成の方法等について講義、演習を行う。

また、教育実習後の発表、協議を行う。

教員にかかわる法規について知る。

実習の意義と心構えについて学ぶ。

指導案の作成や授業を想定し模擬的に行うことができる

内容

1	教育実習ガイダンス
2	教育関係法規
3	教育関係法規
4	教育課程、生徒指導
5	小学校学習指導要領
6	小学校学習指導要領
7	小学校学習指導要領
8	指導案を書く意義と書き方の基本
9	実習を終えて（4年生の話）
10	教育実習に向けて
11	教育実習に向けて
12	事例研究
13	事例研究
14	教育実習事後指導
15	教育実習事後指導

評価

事前指導におけるレポート（2割）、指導案等の取り組み状況（3割）

事後指導における研究協議の内容、自己評価の内容（5割）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説総則編（文部科学省）

科目名	教育実習		
担当教員名	松木 正子、綾井 桜子、狩野 浩二、清水 玲子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* ,選必,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【この科目は、再履修者用です。3年生は3年次後期に履修してください。】

この授業は教職員免許法で定める小学校の教育実習に係わる事前事後の指導を行うことをねらいとしている。

教育実習の目的、進め方、教育実習へ臨む心構えを初め、実際の授業の進め方、指導案の作成の方法等について講義、演習を行う。

また、教育実習後の発表、協議を行う。

教員にかかわる法規について知る。

実習の意義と心構えについて学ぶ。

指導案の作成や授業を想定し模擬的に行うことができる

内容

【再履修者用集中講義科目です】

以下の内容は、取り扱う項目を示します（順不同）。

- 1 教育実習ガイダンス
- 2 憲法、教育基本法
- 3 学校関係法令
- 4 教育課程、児童指導
- 5 小学校学習指導要領 総則
- 6 小学校学習指導要領 各教科、領域
- 7 学習指導案の作成 方法
- 8 略案の作成と授業の実際 国語
- 9 略案の作成と授業の実際 図画工作
- 10 略案の作成と授業の実際 道徳
- 11 事例研究 保健安全指導
- 12 事例研究 生徒指導
- 13 就学前の幼児を知る
- 14 教育実習事後指導 各学校での経験を交流する
- 15 教育実習事後指導 副免（幼稚園実習）での経験を交流する。

評価

事前指導におけるレポート（2割）、指導案等の取り組み状況（3割）

事後指導における研究協議の内容、自己評価の内容（5割）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説総則編（文部科学省）

科目名	教育実習		
担当教員名	松木 正子、綾井 桜子、狩野 浩二、清水 玲子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【4年生前期に実施します。注意してください】

この科目は、小学校教諭 種免許状を習得するためには必ず履修する必要がある。

この実習 は、実際に小学校現場での4週間の実習を行う。

そのためには実習 を受講し、事前事後の指導を受け、必要な単位数を満たしていることが求められる。実習期間は、勤務であるので、学校の勤務に合わせて拘束されることになる。また、子どもと常に接することになるので、その心構えができていくことが重要である。その自覚がほしい。

学校教育活動を実際の教育現場で実習体験することにより大学で学んだ初等教育を理論的・技術的にもより深く学ぶ。また、実践力をつけることを目的とする。

内容

小学校教諭 種免許状習得には、必ず履修すること。

「講話」実習校において、校長または分掌主任等から講話をいただく。

- ・学校の沿革、概要など
- ・教育目標、努力目標など
- ・勤務上の服務について

「観察」実習校において実際の教育活動を参観する

- ・各教科、特別活動、道徳など学習
- ・学級活動、朝や帰りの会、清掃、昼食指導などその他の教育活動
- ・他の実習生の指導の様子

「参加」指導担当教諭の授業初め生活指導の一部また補助者として参加する。

- ・授業担当教諭の授業の一部を分担する
- ・教材づくりや資料収集などの補助
- ・給食や清掃などの指導を分担する
- ・教室環境整備の補助
- ・学校行事等の役割分担など

「応用実習」指導担当教諭の指導のもと、実際に授業を行う

- ・各教科等実際に授業を行う
- ・学級運営に参加し、児童の理解や運営指導の方法を習得する
- ・学級や児童の実態に応じた学習指導案を作成する
- ・各教科等について研究授業を行う

評価

実習校の評価を基本とし、学校評価を加味して総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教育実習の手引き、教育実習日誌(大学より配布する)

科目名	教育実習		
担当教員名	松木 正子、綾井 桜子、狩野 浩二、清水 玲子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必,必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【この科目は再履修、科目等履修生等のために開設します。4年次生は前期科目を履修してください】

この科目は、小学校教諭 種免許状を習得するには必ず履修する必要がある。

この実習 は、実際に小学校現場での4週間の実習を行う。

そのためには実習 を受講し、事前事後の指導を受け、必要な単位数を満たしていることが求められる。実習期間は、勤務であるので、学校の勤務に合わせて拘束されることになる。また、子どもと常に接することになるので、その心構えができていくことが重要である。その自覚がほしい。

学校教育活動を実際の教育、現場で実習体験することにより大学で学んだ初等教育を理論的、技術的により深く学ぶ。、また、実践力をつけることを目的とする。

内容

【この科目は、再履修者、科目等履修者、4年次後期以降に履修する場合の科目です】

小学校教諭 種免許状習得には、必ず履修すること。

「講話」実習校において、校長または分掌主任等から講話をいただく。

- ・学校の沿革、概要など
- ・教育目標、努力目標など
- ・勤務上の服務について

「観察」実習校において実際の教育活動を参観する

- ・各教科、特別活動、道徳など学習
- ・学級活動、朝や帰りの会、清掃、昼食指導などその他の教育活動
- ・他の実習生の指導の様子

「参加」指導担当教諭の授業初め生活指導の一部また補助者として参加する。

- ・授業担当教諭の授業の一部を分担する
- ・教材づくりや資料収集などの補助
- ・給食や清掃などの指導を分担する
- ・教室環境整備の補助
- ・学校行事等の役割分担など

「応用実習」指導担当教諭の指導のもと、実際に授業を行う

- ・各教科等実際に授業を行う
- ・学級運営に参加し、児童の理解や運営指導の方法を習得する
- ・学級や児童の実態に応じた学習指導案を作成する
- ・各教科等について研究授業を行う

評価

実習校の評価を基本とし、学校評価を加味して総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教育実習の手引き、教育実習日誌(大学より配布する)

科目名	児童英語		
担当教員名	島田 美織		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

The aim of this course is to give students a general introduction to teaching English to young children in Japan. Students will acquire basic vocabulary, skills to create materials and design lessons, and the way to introduce English words/phrases to young learners of English.

内容

The students will work with textbooks and other materials which have been used successfully in Japan to develop the speaking, listening, and pre-writing skills in English. Fun and easy-to-use activities, such as games and songs to teach the skills will be introduced and practiced, as well as basic classroom English to develop teacher confidence. The course will be taught in English and limited to "20 students" at the most. (最大定員 20名)

Week 1	Greeting the classroom ready (Lesson 1)
Week 2	Greeting learners (Lesson 2)
Week 3	Planning lessons (Lesson 3)
Week 4	Using teaching aids (Lesson 4)
Week 5	Teaching listening (Lesson 5)
Week 6	Leading pronunciation practice (Lesson 7)
Week 7	Facilitating speaking (Lesson 8)
Week 8	Introducing vocabulary (Lesson 9)
Week 9	Beginning reading (Lesson 10)
Week 10	Presenting a story-reading lesson (Lesson 11)
Week 11	Review
Week 12	Preparation for group presentations
Week 13	Rehearsal
Week 14 & 15	Group presentations

評価

Evaluation will be based on participation (30%), homework assignments (20%) and final presentation (50%). Excellent attendance is required. Tardiness three times will equal an absence.

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

Teaching English to Young Learners (Compass publishing)

科目名	児童英語		
担当教員名	島田 美織		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

The aim of this course is to give students a general introduction to teaching English to young children in Japan. Students will acquire basic vocabulary, skills to create materials and design lessons, and the way to introduce English words/phrases to young learners of English.

内容

The students will work with textbooks and other materials which have been used successfully in Japan to develop the speaking, listening, and pre-writing skills in English. Fun and easy-to-use activities, such as games and songs to teach the skills will be introduced and practiced, as well as basic classroom English to develop teacher confidence. The course will be taught in English and limited to "20 students" at the most. (最大定員 20名)

Week 1	Greeting the classroom ready (Lesson 1)
Week 2	Greeting learners (Lesson 2)
Week 3	Planning lessons (Lesson 3)
Week 4	Using teaching aids (Lesson 4)
Week 5	Teaching listening (Lesson 5)
Week 6	Leading pronunciation practice (Lesson 7)
Week 7	Facilitating speaking (Lesson 8)
Week 8	Introducing vocabulary (Lesson 9)
Week 9	Beginning reading (Lesson 10)
Week 10	Presenting a story-reading lesson (Lesson 11)
Week 11	Review
Week 12	Preparation for group presentations
Week 13	Rehearsal
Week 14 & 15	Group presentations

評価

Evaluation will be based on participation (30%), homework assignments (20%) and final presentation (50%). Excellent attendance is required. Tardiness three times will equal an absence.

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

Teaching English to Young Learners (Compass publishing)

科目名	教育社会学		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、小学校教諭一種免許状の取得に必要とされる「教科又は教職に関する科目」のうちの一つです。

講義では、いじめ、不登校、学力問題など私たちの身近な教育問題を含め、学校および教育をめぐる現状を社会的な視点から幅広く学びます。

学修目標は次の三つです。 いじめ、不登校、学力問題についての今日の状況を客観的に把握する そのために必要な資料、文献を読み、理解する 教育問題を複眼的に考察する。

内容

1. イントロダクション 教育を社会の眼差しで見るとは
2. 教育と社会化 - しつけと社会化、学校と方法的社会化
3. 現代社会と教育問題 - いじめの社会問題化
4. 現代社会と教育問題 - いじめの予防・解決
5. 現代社会と教育問題 - 不登校
6. 現代社会と教育問題 - 小1プロブレム・中1ギャップ
7. 中間発表
8. 学力低下の実態
9. 学習意欲の問題
10. 学力問題への各国の取り組み
11. 学力問題への各国の取り組み
12. 学力問題と階層
13. 学歴社会の変容
14. 教育・学歴・資格
15. まとめ

評価

レポート(50点)、課題発表(30点)、授業への参加度(20点)による評価とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】苅谷剛彦ほか『新版 教育の社会学<常識>の問い方、見直し方』有斐閣

【推薦書】森田洋司『いじめとは何か 教育の問題、社会の問題』中央公論新社

森田洋司『「不登校」現象の社会学』学文社、第2版

苅谷剛彦『教育と平等 大衆教育社会はいかに生成したか』中央公論新社

滝川一廣『学校へ行く意味・休む意味』日本図書センター

【参考図書】苅谷剛彦『学校って何だろう - 教育の社会学入門』筑摩書房

科目名	児童社会学		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもという存在は、日本の伝統的社会においては、多くの人々による関わり合いや見守りの中で成育するものと考えられていた。家庭の中で抱え込むのではなく、社会の中でこそ育つ公的な存在だったのである。よって子どもを育てるには、可愛がるだけでなく「躰」が重要視されたり、家族以外の他者の手、知恵、力添えも必要だと考えられてきた。

かつての日本人が、どのように子どもの社会化を促してきたのか。子どもを家庭から社会へと目を向かわせる文化のしくみについて講義していく。

内容

第1回 プロローグ 子どもと社会の境界が曖昧になっている現代社会

第2回 大人になるための多様な文化の仕掛け

第3回 児童文化からみた仕掛けの多様性

第4回 地獄・極楽の絵解きに見る教育

第5回 双六遊びにみる人生教育

第6回 ことわざ、カルタによる躰

第7回 格言、寸言、箴言、かぞえ歌・いろは歌などによる躰

第8回 躰の絵本の系譜について

第9回 おばけの話

第10回 赤ちゃん絵本に見る躰

第11回 幼年絵本に見る躰

第12回 いたずら者、怠け者、悪童物語による躰

第13回 「三年寝太郎」など日本の怠け者の系譜

第14回 「ピノキオの冒険」など西欧の悪童物語の系譜

第15回 エピローグ 個人と社会の取り結び方について

評価

授業中の発表20%、レポート80パーセントによって成績をつける。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業のなかで、適宜、推薦書を明示する。

科目名	児童福祉論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 現代社会における子ども・家庭福祉の実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要(ひとり親家庭、児童虐待、DV、地域における子育て支援等)と実際を理解する。
- 2 子ども・家庭制度の発展過程を理解する。
- 3 子供の権利(子どもの最大の利益を実現する視点)を理解する。
- 4 児童福祉法、児童虐待防止法、DV法、母子及び寡婦福祉法、母子保健法、児童手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法等の支給に関する法律、次世代育成支援対策推進法のあらましを理解する。

内容

1	児童・家庭の生活実態とこれを取りまく社会情勢(少子化、いじめ、少年非行、家庭養育機能等)
2	児童・家庭の福祉需要
3	児童・家庭福祉制度の発展過程
4	児童の定義と権利(児童福祉法、児童の権利に関する条約等)
5	児童福祉法
6	児童虐待の防止に関する法律
7	DV法の概要及び売春防止法の概要
8	母子及び寡婦福祉法
9	母子保健法
10	児童手当法・児童扶養手当法・特別児童扶養手当の支給に関する法律の概要
11	次世代育成支援対策推進法・少子化対策推進法
12	児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際(国・都道府県・市町村等の役割)
13	児童・家庭福祉制度における専門職の役割と他職種連携と実際
14	児童相談所の役割と実際
15	まとめ

評価

レポート40点、筆記試験60点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書「児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度」 ミネルヴァ書房

参考図書 社会福祉六法

科目名	子どもの運動発達論		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

児童幼児教育学科の選択科目です。

科目の概要

本授業では、幼児期の発達の特徴に応じた運動遊びの援助を行うために必要な知識と経験を深めます。まず、前半の講義を受講することを通して幼児期の運動指導に関する理解を深めます。後半は、子どもの多様な動きを引き出すための教材研究や教材の製作を通して経験を深めます。

学修目標

1. 幼児期の運動発達とその援助方法について理解を深める
2. 幼児期の発達の特徴に基づいた運動遊びの援助について経験を深める

内容

1	ガイダンス（授業内容の詳細および授業の進め方等）
2	現代社会に生きる子どもの生活と保育者の役割（講義）
3	動機づけと運動（講義）
4	運動指導のポイント（講義）
5	遊具の役割（講義）
6	安全への配慮（講義）
7	運動の効果（講義）
8	運動遊びのための教材研究 ・文献研究（グループワーク）
9	運動遊びのための教材研究 ・指導案の作成（個人）
10	運動遊びのための教材研究 ・指導案の検討（グループワーク）
11	運動遊びのための教材研究 ・教材の作成（グループワーク）
12	運動遊びのための教材研究 ・教材の作成（グループワーク）
13	運動遊びのための教材研究 ・作成した教材の試行（グループワーク）
14	運動遊びのための教材研究 ・作成した教材の試行（グループワーク）
15	運動遊びのための教材研究 ・作成した教材の改善（グループワーク）

評価

評価は、運動指導理論の理解度（40点）、教材研究の過程と成果（40点）、まとめのレポート（20点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 岩崎洋子編 保育と幼児期の運動遊び 萌文書林

科目名	子どもの科学演習		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

児童は理科が大好きである。しかし現場の教師に理科実験を敬遠する傾向が見られる。そこで、身近な道具を使って子どもたちでもできる実験を工夫・開発し、実際に体験することを通して、理科の楽しさを実感することをねらいとする。

理科の4分野(物理, 化学, 生物学, 地学)に関して, 小学校理科で扱う内容に限定せず, 理論的な裏づけや根拠を理解するということより, 楽しいと思われるテーマに取り組んでみる。

内容

1	リニアモーターカーを教室に走らせよう(電流の働きを調べる)
2	動くおもちゃを工夫しよう。(おもりの働き)
3	ペットボトルで水ロケットを作ろう
4	音や光の実験箱(物に光を当てたり, 物で音を出したりしてみよう)
5	焚き火の名人(原始人の火おこし術から, 木がよく燃える仕組みを考えよう)
6	物の溶け方(きれいな結晶を作ろう)
7	空気鉄砲や水鉄砲を作ってみよう
8	ガラスビーズで顕微鏡を作ろう(身近な微生物)
9	魚の食べ物の通り道を調べよう
10	植物や動物の育ち方(継続観察)
11	波の伝わり方(縦波、横波)
12	高いビルほど激しく揺れて危険だ
13	川はどうして蛇行するのか(大地のつくりとでき方)
14	星の動きを確かめよう(手作りプラネタリウム)
15	まとめ

評価

毎回の課題に対する提出されたレポート(60%)、授業参加意欲・授業態度(20%)、最終レポート(20%)などから、総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】資料を適宜配布する

科目名	情報教育論		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

21世紀を迎えて、教育環境の変化、特に情報通信ネットワーク、デジタル機器などマルチメディアの発達と普及は目覚ましく、教育現場におけるメディア環境を一変させようとしている。この変化は、単に新しいメディアが視聴覚教育に加わるというものではなく、メディアの役割のみならず、教育そのものの変革を迫っている。メディアの発達は、教育に強い影響を及ぼすのみならず、新たな教育課題を発生させる。その最大の課題は、これまで学校、家庭、社会といった子どもの実体験的空間の中で考えられてきた教育についての考え方の修正である。教師として、メディアそのものの理解を求めるメディア・リテラシーの習得が必要不可欠である。

ICTを利用して問題解決できるようになること。メディア・リテラシーを身につけること。

内容

1	情報とは何か(情報研究の歴史)
2	情報概念(情報の5つの特性)
3	コミュニケーションと教育メディア(文字・ことば・文章、情報のデジタル化)
4	情報化の進展と情報教育
5	情報教育の考え方(学校教育における位置づけ)
6	情報教育の目標(3本柱)
7	小学校の各教科における情報教育
8	学校教育における視聴覚メディアの活用
9	インターネットとマルチメディアの教育利用
10	メディア・リテラシーとは
11	子どもの学習活動と情報教育の実践(ICT活用能力)
12	情報モラルと情報セキュリティ
13	学生によるプレゼンテーション
14	学生によるプレゼンテーション
15	まとめ

評価

授業中に行う課題に対する評価(30%)、課題レポートに対する評価(30%)、テスト(30%)、授業への参加度(10%)を総合して評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は使用せず。毎回の授業において、印刷資料を配布する。

科目名	IT活用授業演習		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

これからの小学校普通教室には、構内ネットワーク(LAN)が敷設され2台のPCと1台のプロジェクタが配備されるだろう。さらに黒板の横に電子情報ボードが置かれるかもしれない。これらのITを活用して子どもたちに「分かる授業」をやり、学力を伸ばすことが求められている。そこで、本演習ではITをどの教科でもどの授業でも活用して「分かる授業」ができるIT活用授業マイスターを養成することをねらいとする。

ICTを活用できるようになること、ICTを活用して「分かる授業」を実施できる能力を身につける。ICTを活用した教材を作成できるようになること。

内容

1	これからの教員、これからのIT活用授業
2	IT活用授業の特徴、IT活用と学力
3	普通教室でのIT活用のための準備
4	実践しやすさから見たIT活用授業
5	ものを写して動きや操作を教える授業の設計
6	教科書の写真を大写して吟味する授業の設計
7	デジタルカメラを教材提示装置に利用した授業
8	パワーポイントで教材作成
9	理科実験室で効果的なIT活用をした授業の設計
10	電子情報ボードでデジタルコンテンツを活用した授業
11	創造的な図工授業を実現するIT活用授業の設計
12	低学年でもできるデジタルカメラとテレビを用いたプレゼンテーション学習
13	校内学習センターや公立教育センターによるコンテンツ利用の授業設計
14	ITC活用スキルのチェックリスト
15	まとめ

評価

授業中に行う課題に対する評価(30%)、継続観察レポートに対する評価(30%)、テスト(30%)、授業への参加度(10%)を総合して評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は使用せず。毎回の授業において、印刷資料を配布する。

科目名	表現活動		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動(朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動)のために創作された作品(今年度は、よこすかかおる/詩、梶山正人/曲「かたくりの花」)に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらう会を持ちたいと思っています。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

内容

以下、取り上げる内容について列記します(順不同)。

第1回目の時に、取り上げる作品などについて説明します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

評価

毎時間の取り組み(協調性20点、 主体性20点、 教材解釈20点、 表現力20点、 創造性20点)を総合して評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組みを進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ(研究題目)の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施(アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等)
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究(提出された卒業研究論文)(70点)を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ（研究題目）の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施（アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等）
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究（提出された卒業研究論文）（70点）を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進度確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ(研究題目)の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施(アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等)
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究(提出された卒業研究論文)(70点)を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進度確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施 (アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等)
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究 (提出された卒業研究論文) (70点) を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施 (アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等)
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究 (提出された卒業研究論文) (70点) を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ(研究題目)の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施(アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等)
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究(提出された卒業研究論文)(70点)を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進度確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ（研究題目）の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施（アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等）
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究（提出された卒業研究論文）（70点）を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施 (アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等)
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究 (提出された卒業研究論文) (70点) を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施 (アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等)
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究 (提出された卒業研究論文) (70点) を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進度確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ（研究題目）の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施（アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等）
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究（提出された卒業研究論文）（70点）を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1. ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に 関してテーマをしぼり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究のねらいは、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ（研究題目）の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施（アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等）
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究（提出された卒業研究論文）（70点）を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	教職演習		
担当教員名	廣坂 多美子、黒瀬 任通、増田 吉史、高橋 京子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職を目指す受講者のための選択科目である。

教師としての自己の教育に対する考え方、教師としての自己のあり方等の根本となる信念の確立をめざすものである。

科目の概要

学校教育の具体的な課題を取り上げ、教師としての考え方及び自己のあり方を考察し、自己の考え方を文章、口頭、討論などで表していく活動に取り組む。

学修目標

- ・ 自己の教師としての学習指導、生徒指導、保護者への対応に対する考え方、あり方等をより一層磨き深める。

内容

- 1 オリエンテーション
- 2 学習指導の在り方と実際（場面指導の実践）
- 3 生徒指導の在り方と実際（場面指導の実践）
- 4 児童生徒の活動に対する指導の在り方と実際（場面指導の実践）
- 5 目指す児童像、学年・学級目標とは
- 6 自己の特徴を活かした教師としての取り組み（文章記述、ことばで表現する）
- 7 信頼される教師の姿とあり方
- 8 めざす学級経営のあり方を表わす（文章記述、言葉による表現）
- 9 めざす学級像についての考察と表現
- 10 学級のルールづくり（生活、学習、活動、等）
- 11 体力向上、健康を守る児童生徒の意識づくりと指導・育成のあり方
- 12 自己の学校教育に対する考え方、具体的取り組み方を文章により表現する。
- 13 自己の学校教育に対する考え方、具体的取り組み方を言葉により表現する。
- 14 学力向上に対する考え方、具体的取り組み方を文章記述、言葉で表現する。
- 15 まとめ

評価

課題レポート・提出物（60点）、授業への取り組み・小テスト（40点）などにより総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考書

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
- ・ 小学校学習指導要領解説(総則編) 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 各種審議会等からの答申 等
- ・ 都道府県・政令市が掲げる教育施策・求める教師像 等

科目名	幼稚園教育実習		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状取得のための保育現場における総合的実習の科目である。

小学校教諭免許状取得のために4週間の小学校教育実習をあわせて受講する者が履修対象である。

幼稚園教育専門科目で学んだ内容と、実習園での実習内容とを結合させて教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとするのが求められる。

幼稚園での教育実習を体験することで、大学で学習した理論や教育方法を活用しながら、幼稚園教諭を目指す者として必要な保育観、知識・技能などを学び、指導力を身に付けることを目標とする。

科目の概要

幼稚園教育の基本となる考え方、幼児の発達特性、教育実習を行う際の心構え等について学び、実習園における総合実習及び実習の経験から学んだことの理解を深める。

学修目標

幼稚園教育の理念・特質を理解する

幼稚園教育の具体的な指導内容・方法について理解する

幼稚園教育の具体的な指導力を身に付ける

幼稚園教育と小学校教育の接続について理解する

内容

(1) 事前指導

課題意識をもって実習に臨むことを目指して、幼稚園教育の基本となる考え方について学び、幼稚園教育の実際について具体的なイメージを広げる。

実習の目的・目標、内容等にかかわるオリエンテーション

幼児の発達特性と観察の方法について

保育内容、指導と評価

幼稚園の教育課程・指導計画の考え方、指導案作成の方法

実習園におけるオリエンテーション (園長、実習担当の教職員等による)

(2) 総合実習

小学校教諭 1 種免許状を取得することを前提条件としているので、実習期間は、2週間である。

参加観察実習と責任実習を含む総合実習を連続して行う。

実習日誌を毎日書き、実習園の担当教諭等から指導を受ける。

幼児集団を指導する部分実習 (数回) 及び責任実習 (1日) を行う。

両実習に当たっては、学級や幼児の実態に即した指導案を作成し、実習園の担当教諭等から指導を受けることとする。

実習園は原則として学校指定の園とするが、帰省先での実習など特例は認められる。

(3) 事後指導

学内での実習報告や実習日誌を手がかりとして、幼稚園教育に関する理解を深める。

幼稚園教育の独自性

幼稚園における学びの評価

幼稚園教育と小学校教育の接続（遊びの中の学びから学習へ）

評価

実習指導園から実習の取り組み状況等に関する評価を受け、それを参考に実習担当教員が評価する。

実習日誌、事前事後指導における取り組み状況や提出物も評価対象となる。

事前事後指導中の取り組み態度及び実習日誌等の提出物を30%、教育実習の勤務状況、実習の取り組み姿勢及び実習園の成績評価等を70%として、総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】プリント配布

【参考書】文部科学省 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館

文部科学省 「幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価」 ぎょうせい

科目名	教職実践演習（幼・小）		
担当教員名	松木 正子、廣坂 多美子、増田 吉史、高橋 京子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職を目指す授業者のための必修科目である。

教師として学校に勤務することを想定し学校における実際の教育活動での対応について実践的に考察し取り組む科目である。

科目の概要

学級湯担任や学年に所属する教師が行う教育活動について、具体的な事例や場面を想定し、実践的に書くどうに取り組む学修活動を進める。

学生の問題意識を尊重し、学習の中でコース別の演習形式の時間も設定する。

学習目標

担任を担当する教師として教育活動に取り組んでいける実践的知識と技能を身につける。

内容

1	ガイダンス（学級担任の一日）
2	目指す児童生徒像
3	学級経営案の作成
4	教育実習の体験から（体験報告会）
5	教育実習の体験から（体験報告会からの課題）
6	コース別演習（教材研究、学級経営、社会人として）
7	コース別演習 -
8	コース別演習 -
9	コース別演習（評価・評定、読書指導、メンタルヘルス）
10	コース別演習 -
11	コース別演習 -
12	コース別演習（授業づくり、保護者対応、安全管理・緊急時の対策）
13	コース別演習 -
14	コース別演習 -
15	まとめ

評価

課題レポート、提出物（6割）、授業への取り組み・小テスト（4割）などにより総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

/

小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍

小学校学習指導要領解説 平成20年9月 文部科学省 東洋館出版社